

各 位

会社名 株式会社 ケア 21  
 代表者名 代表取締役社長 依田 平  
 (JASDAQ・コード: 2373)  
 問合せ先 常務取締役 遠藤 昭夫  
 業務統括本部長  
 (TEL.06-6456-5697)

### 平成 30 年 10 月期第 2 四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 29 年 12 月 8 日に公表いたしました平成 30 年 10 月期第 2 四半期累計期間および通期業績予想の修正を決議いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 30 年 10 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 13,500	百万円 250	百万円 100	百万円 60	円 銭 26.58
今回修正予想 (B)	13,500	△120	△80	△70	△31.01
増 減 額 (B-A)	0	△370	△180	△130	
増 減 率 (%)	0.00	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 10 月期第 2 四半期)	11,999	282	174	439	193.49

#### 2. 平成 30 年 10 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,300	百万円 100	百万円 50	円 銭 22.15
今回修正予想 (B)	12,300	△100	△90	△39.87
増 減 額 (B-A)	0	△200	△140	
増 減 率 (%)	0.00	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 10 月期第 2 四半期)	10,957	145	456	201.30

3. 平成30年10月期通期連結業績予想数値の修正

(平成29年11月1日～平成30年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 30,000	百万円 1,000	百万円 700	百万円 450	円 銭 199.34
今回修正予想 (B)	28,700	500	300	170	75.31
増減額 (B-A)	△1,300	△500	△400	△280	
増減率 (%)	△4.3	△50.0	△57.1	△62.2	
(ご参考) 前期通期実績 (平成29年10月期通期)	25,225	879	660	733	323.91

4. 平成30年10月期通期個別業績予想数値の修正

(平成29年11月1日～平成30年10月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 27,300	百万円 500	百万円 300	円 銭 132.89
今回修正予想 (B)	26,100	150	70	31.01
増減額 (B-A)	△1,200	△350	△230	
増減率 (%)	△4.4	△70.0	△76.7	
(ご参考) 前期通期実績 (平成29年10月期通期)	22,904	486	621	274.46

## 5. 修正の理由

当連結会計年度は、期の前半に新規施設の大半を開設する計画となっております。当社は、これらの新規施設や前連結会計年度後半に開設した施設の早期満床を目指し、ホームページのリニューアルや入居促進キャンペーンなどの広告宣伝および営業人財を重点的に配置するなど、積極的な営業展開を図ってまいりました。結果、当第2四半期累計期間の売上高については、当初予想の数値を達成できる見込みとなっておりますが、これら営業展開に対する投資効率が芳しくなく予想以上の投資が必要となったことにより、営業利益が当初予想から大幅な減益を見込むこととなりました。また、経常利益および四半期純利益につきましては、認可保育園開設にともなう自治体からの補助金を営業外収益に計上したため、減益額が一部改善されております。

通期におきましては、第3四半期以降も第2四半期累計期間の減益の影響が一部残ると思われれます。また、今期より積極展開を見込んでいた新規事業について、事業開始準備に想定以上の時間を要したことから事業展開が次期以降にずれ込む見込みであり、売上高の減少を見込んでおります。一方、本年4月に実施された介護報酬改定の影響についても検討を重ね、今回の修正にその影響は含まれておりますが、上記売上高の減少を補填するまでには至らないと判断しており、売上高も含め通期業績予想につきましても修正することとなりました。

今後につきましては、引き続き施設の満床、訪問介護のサービス提供時間の純増に向けた営業施策を全社挙げて進めて行くとともに、第2四半期累計期間の投資効率低下の原因を分析し投資効率の向上を図り、総額としての投資削減も併せて、業績の改善に努めてまいり所存であります。

※上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、様々な要因により異なる可能性があります。

以 上